

東横学園女短大 ○有馬 澄子
池谷真知子
吉水 英子
三村 順子

1. 肩傾斜角は衣服原型製作のための重要な一要因でありながら、既存の原型製図法ではあらかじめ適当な値を与えておき、仮縫補正で修正するという方法をとってきた。しかし肩傾斜角度についても、胸囲やその他の部位のように実測値或は適正な割り出し値から製図をひき、面倒な補正をはぶく方法を見出せたらという目的から本研究をはじめた。

2. 女子短大生(18歳~22歳)376名を対象に肩傾斜角度、身長、体重、胸囲、背肩巾を測定し統計解析した。その結果を基礎に肩傾斜角度8度~32度まで2度間隔づつ角度の異なる人体模型を製作し、それぞれに肩傾斜角度の異なる胴部原型を着用させて、製図値と実際に着用した状態との関連を観察し、適正值及許容量を検討した。

3. 肩傾斜角度の平均値は20.7度であった。最高は32度、最低は8度であった。左右の肩傾斜角度の同じ人は全体の16.8%、右角度の大きい人は全体の50%、左角度の大きい人は全体の33.2%であった。肩傾斜角度と身長、体重、胸囲、背肩巾との間には高い相関はみられなかった。着用結果は、肩傾斜角度をそのまま前後の肩下り角度に与えて製図したものが最もよく適合した。許容量としては±2度までは認められる状態であった。